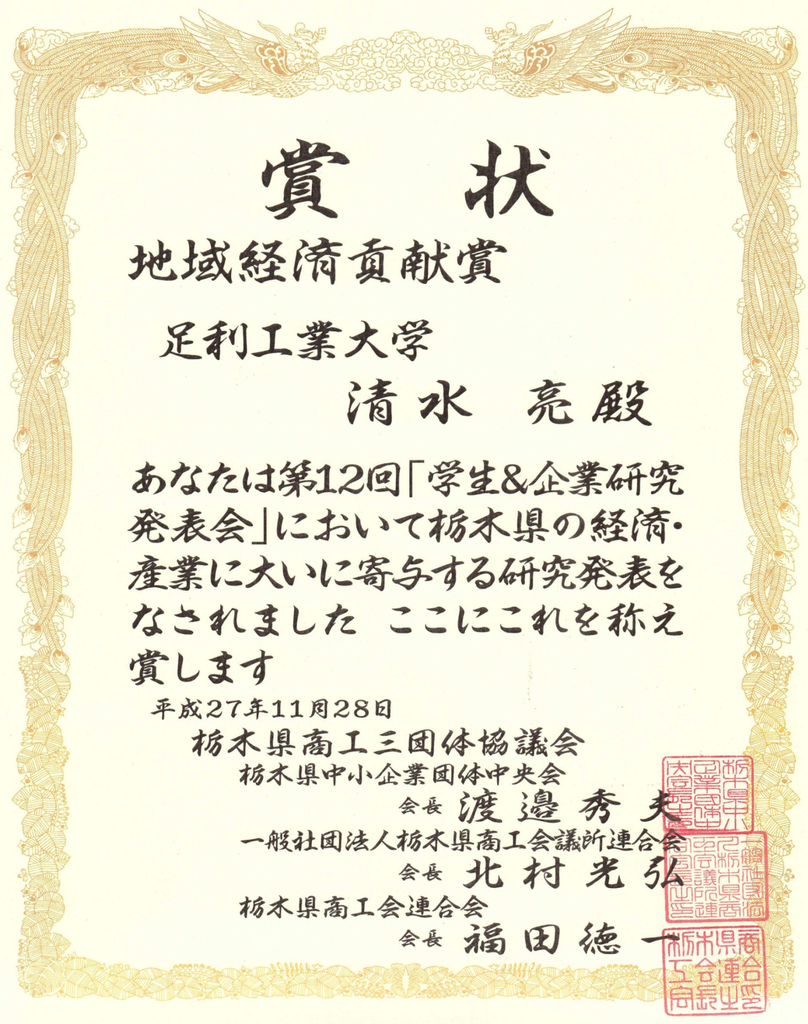
≪足利工業大学 ＆ 栃木県立烏山高等学校 共同研究 ≫

『第12回学生＆企業研究発表会』にて特別賞受賞！

「地域経済貢献賞」受賞！



賞　状

地域経済貢献賞

足利工業大学
清水　亮　殿

あなたは第12回「学生&企業研究発表会」において栃木県の経済・産業に大いに寄与する研究発表をなされました　ここにこれを称え賞します

平成27年11月28日

栃木県商工三団体協議会
栃木県中小企業団体中央会
会長 渡邉秀夫
一般社団法人栃木県商工会議所連合会
会長 北村光弘
栃木県商工会連合会
会長 福田徳一

■研究題目■
ＪＲ烏山線を基軸とした地域交流機会の拡大に向けた取り組み
～市民ワークショップとフットパス企画の成果を踏まえて～

大学コンソーシアムとちぎ SINCE 2005

栃木県内19の高等教育機関の連携により、地域社会および産業界に貢献することを主たる目的として設立された組織で、4つの委員会により構成されている。「学生＆企業研究発表会」は、その一つ『産学官連携サテライトオフィス事業委員会』が主管している。

開催概要と審査結果の公表

(http://www10.plala.or.jp/sat2003/pdf_file/2015happyoukai-houkoku.pdf)

・行 事 名：第12回「学生＆企業研究発表会」
・開催日時：平成27年11月28日(土)　9：00～17：15
・開催場所：宇都宮共和大学 宇都宮シティキャンパス(宇都宮[illegible]通り1-3-18)
・実施結果の概要（資料添付）
　参 加 者：大学関係者、学生の発表者、産業界・企業[illegible]名
　発表件数：11の大学・専門学校から全分野計76件、企業[illegible]
　　地域社会活性化分野：22件
　　環境エネルギー分野：13件
　　ものづくり分野　：12件
　　医学・医療・福祉分野：11件
　　ポ ス タ ー 発 表：18件
　　企 業 発 表　：2件
・審査結果：最優秀賞(知事賞)1件、関東経済産業局長賞1件、金賞5件、協賛企業・団体(経済同友会、朝日新聞 等)の冠賞7件を表彰式にて表彰
　他に企業賞19件を選出

■口頭発表部門
1.地域社会活性化分野（22篇）
2.環境エネルギー分野（13篇）
3.ものつくり分野（12篇）
4.医学・医療・福祉分野（11篇）
■ポスターセッション（18篇）
■企業発表（2篇）

■口頭発表(4部門)・ポスターセッションの5部門から1件選考
≪知事賞1点・関東経済産業局長賞1点・金賞5点≫
■セッションを超えて7件選考
（協力企業や協賛団体などによる冠賞）
≪地域経済貢献賞・栃木経済同友賞・栃木県経営者協会賞・栃木信用金庫理事長賞・鹿沼相互信用金庫理事長賞・日刊工業新聞モノづくり地域貢献賞・朝日新聞社賞≫
■企業賞 19件

足利工業大学：清水亮・布施和也・鳥海航・山口亮・岡本竜馬
丸岡祐也・坂入宣孝//福島二朗(教員)
烏山高等学校：西澤将大・柴野裕紀・高塩飛翔・木村早希
岩田苑希・平野麻由・池田奈々美・平山優花//藤井啓太(教員)

光った 鉄道唱歌研究

まちづくり研・足工大生と烏山高生

那須烏山

地域経済貢献賞を受賞

現地調査や回遊マップ評価

【那須烏山】市まちづくり研究会の足利工業大生7人と烏山高生8人による共同研究チームがこのほど、1930年ごろに作られた烏山線の鉄道唱歌を題材にした研究で、大学コンソーシアムとちぎ主催の「第12回学生&企業研究発表会」の特別賞のうち最高賞の「地域経済貢献賞」を受賞した。

特別賞受賞は昨年の「鹿沼相互信用金庫理事長賞」に続き2回目。市民らが参加した現地調査や、研究の最終目標である「JR烏山線の地域資源回遊マップ」を制作することなどが評価された。

鉄道唱歌は、明治から昭和初期に全国の鉄道で作られ、県内では「下都賀郡鉄道唱歌草案」などが確認されている。研究は1923年に開業した烏山線沿線地域で30年ごろに作られた「烏[illegible]線鉄道唱歌」のコピーを、同大工学部の福島二朗准教授が市内で入手したのがきっかけ。

同チームは昨年、福島准教授の指導で唱歌の歌詞の解明と20編の全文を書き起こし、学校や建物跡、風景など59の固有名詞を抽出、沿線の事物や場所を調査し、まちづくりに生かすことを提案した。

ことしは唱歌の解明とともにJR烏山線を活用した地域交流を目的に市民ワークショップを3回開催。さらに調査地域となった地域資源132件をリストアップし、烏山線8駅を起点に市民らと歴史を歩いて学ぶイベント「フットパス」を企画した。今後、同チームではこれらの調査結果を基に「地域資源回遊マップ」や現代版「烏[illegible]線鉄道唱歌」を制作する予定だ。（近藤文則）

下野新聞
（平成27年12月23日）

鉄道唱歌研究の烏山高生ら

特別賞受賞 市長に報告

那須烏山

【那須烏山】1930年ごろに作られた烏山線の鉄道唱歌「烏[illegible]線鉄道唱歌」の研究で大学コンソーシアムとちぎ主催の「第12回学生&企業研究発表会」の特別賞のうち最高賞の「地域経済貢献賞」を受賞した市まちづくり研究会の足利工業大生7人と烏山高生8人による共同研究チームがこのほど、市役所を訪れ大谷範雄市長に受賞を報告した。

同チームの特別賞受賞は昨年に続き2回目。市民らが参加した現地調査や、研究の最終目標である「JR烏山線の地域資源回遊マップ」を制作することなどが評価された。

市長への報告では、指導に当たった同大工学部の福島二朗准教授が「成果は市民力の結果で、将来を担う子どもたちの思いが詰まっている。調査結果を基に地域資源回遊マップや現代版・烏[illegible]線鉄道唱歌の作成を進めていきたい」とあいさつ。大谷市長は「2年続けてすばらしい賞を受け、まちづくり研究会にとっても名誉なこと」と祝福した。

チームの中心となった同大4年清水亮さん（23）は「研究の成果が認められての受賞はうれしい。地域資源を見つめ直せて新鮮な体験だった」と話していた。（近藤文則）

受賞報告会に訪れた足利工業大生と烏山高生ら

下野新聞
（平成28年1月4日）

鉄道唱歌で地域の魅力再発見

市・烏山高・足利工業大が回遊マップ作製

那須烏山

全国的にも珍しいパルコニーつきの境橋。回遊マップの訪問候補地になっている。2007年度土木学会選奨土木遺産に認定されている＝那須烏山市

1923（大正12）年に開通した現在のJR烏山線沿線の情景をもとに30（昭和5）年につくられたとされる「烏[illegible]線鉄道唱歌」。これをモデルに、那須烏山市に残る歴史的建造物や自然を見直そうという動きが、市と地元の烏山高校、足利工業大によって進められている。

烏山線は高根沢町の宝積寺駅と那須烏山市の烏山駅を結ぶ。明治時代に作詞された「鉄道唱歌」にならい、両駅の頭文字をとった「烏[illegible]線鉄道唱歌」も作られた。

足利工業大工学部の福島二朗准教授（60）が2010年、那須烏山市の知人から烏[illegible]線鉄道唱歌の歌詞は20番まであり、「花岡校」「安楽寺」「太田神社」など当時の学校や寺社などが歌われている。

この唱歌から、今も地域資源として活用できそうな歴史遺産と、ワークショップで参加者から募った新たな地域資源候補地をまとめ、那須烏山の魅力を知ってもらおうと考えられているのが「地域資源回遊マップ」の作製だ。

マップでは、昔の唱歌に歌われている大金駅や森田発電所などに加えて、山あげ会館や烏山防空監視哨など99カ所を示し、周遊ルートも組んだ。宝積寺から烏山までの8駅ごとのエリア内で、それぞれ歩いて1～2時間の範囲で楽しめるマップづくりを目指す。福島准教授の研究室と烏山高校の共同研究チームを中心に取り組んでおり、今春の完成を予定している。

もうひとつの柱が、新しい地域資源の名称を盛り込んだ新しい鉄道唱歌の制作で、やはり研究チームが進めている。烏山高校でまちづくり研究会の指導をしている藤井啓太教諭（41）は「生徒たちがこの作業を通じて自分が住んでいる土地の歴史と文化に愛着を持ち、進学や就職で市外に出た後も戻ってきてもらうきっかけになってくれたらうれしい」と話している。

このチームの取り組みが評価され、昨年11月の「第12回学生＆企業研究発表会」で地域経済貢献賞を受賞した。同12月には、那須烏山市役所で受賞報告会があった。大谷範雄市長は「この試みが地域の活性化につながることを心から期待している」とエールを送った。（佐藤大郎）

烏[illegible]線鉄道唱歌
石のきざはし苔むして　慈覚大師開山の
堂宇をめぐる老杉は　雲を掃ふにさもにたり
田の倉校や安楽寺　窓下に青き荒川を
再び右にながめつつ　すぐれば変わる峯の松
太田神社を右に見て　左に仰ぐ星の宮
文挟校の庭先を　すぐれば早やも熱田駅
（足利工大の資料から一部抜粋）

受賞報告会で大谷市長（右）の激励を受ける足利工業大や烏山高校の生徒ら＝那須烏山市役所

朝日新聞
（平成28年1月27日）